（明治四十一年十二月三十日第三種郵便物認可）（日刊）日曜及祭日の翌日休刊　明治四十二年九月十四日（火曜日）　第二百十三號（一）

京城新報

人の一生は重き荷を負ふて遠き道を行くが如し急ぐべからず

●韓鐵經濟の前途（二）

（某當局者の談）

斯の如き狀態に操り布設を了りたる鐵道は京釜京仁線二百九十三哩六分京義線三百廿二哩九分馬山線廿五哩全線六百四十一哩五分にして卅九年度末迄に於ける一哩の建設費は京釜京仁十一万二千四百八十五圓京義線九萬百八十五圓馬山線は九萬五百二圓全線に於ては十万八百六十一圓を要したるものにして內地鐵道に比し其差も亦大なりと曰ふべし之が經濟的經營は頗る困難にして每年收入の缺損を生じ四十年度末迄は國庫に於て之を補助し來れり

卅九年七月一日政府は京釜京仁線を買收し同日統監府鐵道管理局を設置す尙京義馬山線も戰時の必要上陸軍に於て之を經營したるも平和既に復し且つ韓國鐵道經營の機關成りしを以て同年九月一日管理局に引繼ぎ鐵道の統一始めて完成せり

顧ふに殖産興業の見るべきなく人民に經濟的觀念なき韓國の如き貧國に巨資を投じて鐵道の布設を敢てしたるは單に經濟の見地に由らず國家百年の大計より打算したるものたるや明瞭なれば之を經濟的に論するは愚なるが如きも而も之を經濟的ならしむるは鐵道經營の原則なるが故に以下鐵道創始より四十一年度末迄の客貨賃率の變遷其運輸營業の狀態及成蹟を陳べ然る後四十二年度より五十年度に至る經濟の前途を論せん

今旅客賃率の變遷を見るに卅二年九月京仁線開業の際同鐵道合資會社は三等一人一哩一錢五厘の比例法賃率を制定し二等は三等賃金の二倍一等は三倍とせしが京釜合併後卅八年一月賃率統一の目的にて兩線を通じ三等一哩一錢八厘の遞減法賃率を制定し二等は三等の二倍一等に三倍とせり京義馬山線は卅八年十月開業當時軍用鐵道監部にて馬山線は京釜と同一京義線は三等一哩三錢の比例法とし二等は二倍一等は三倍とせるを卅九年七月管理局設置後も之を採用せしが四十一年四月京義馬山線を一般營業線となすと同時に全線賃率の統一を計り比較的廉なる京釜、京仁、馬山線の一錢八厘遞減法と比較的高率なる京義線三錢の比例法とを折衷し三等一哩三錢の遞減法賃率を制定し二等は三等の七割五分增一等は十五割增として施行し玆に韓鐵旅客賃率の統一完きを得て以て今日に及べり（未完）

●吉會鐵道に就て

新協約に成る吉會鐵道は淸國政府と商議の上之を定むとありて何時頃なるか豫測し難く殊に同地は山間僻陬の地にて頗る難工事もあり今强いて之れが敷設に着手せざるべからざる必要もあらざれば旁々之れが實行は尙ほ多くの時日を要す可し萬一實行の曉は協約明文に基き一切辨法は吉長鐵道と一律なる可しとあれば矢張り吉長鐵道と等しく滿洲鐵道會社より資本の供給を仰ぎ技師長及び會計長を日本人とし其他は淸國人に於て不足を感ずる時は日本人を採用する筈にて其實際の經營たるは淸國政府なるも方法如何に依りては日本の經營とも觀るを得可しと某當局者は云へり

●西洋梨の好成績

西洋種の梨は日本に於て之れを栽培せし者は甚だ不成蹟なりしと雖も韓國にては氣候の關係上好成蹟を得る由なれば果樹に志あるものは必ず培養すべきものなりと尙纛島模範場及大和町佐々氏庭園に於ける同果は眞の好適例なり

中山大納言

第五十席

桃川燕玉演

式「所が其妻の曰く、東海道平塚の元鍛冶屋甚助といふ者の妻、亭主に死なれて二歳になる子供があり、誠に育てるに難儀だから、同町の八幡屋傳左衛門と云ふ者へ養子にやつて、自分が居ては子供の爲にならぬから、思切つて平塚を飛出した、他に身寄も親類もない段々困つて伊勢の古市で女郎になつて居た所を、宇佐八幡の神主鵜羽又太夫と云ふ者が伊勢の太神宮へ參詣に來た其歸り、ふとした事から馴染になつて、年季も僅の事だから到頭又太夫が身受をして、在處の宇佐八幡へ連れて行く、是から西の國へ行くのだが、東の空へ殘した倅は今頃はもう年頃になつて居るが、無事に繁昌して居るかどうしたか誠に倅の事が心に懸るといろ〳〵愚妻へ其さだと云ふ婦人から話をした私も一二度會つた事がある、頗る容顔の好い女子であつたが其れだ今だに宇佐八幡の神職鵜羽又太夫方に居るに違ひない、故に拙者は迂濶に其女に會ふ譯にいかぬ、御身が傳治郎を招いで、物は形容だ、先方へ有難いと云ふ心を起させぬければいかぬから、小い木札を二枚拵へて、宜いか、一枚は傳次郎へ渡し、之を持つて西國へ行き、宇佐八幡へ參詣しろ、此木札の片割を持つて居る者が必ずお前の阿母さんに違ひない、斯う言つて斯う〳〵斯樣斯うすれば必ず先方が眞實御身を有難く尊むに違ひない、さうさつしやるやう　右「成程、是は誠に竹内先生宜い事を御敎下すつた、然らば仰せに從つて」と玆ですつかり話が出來た。中一日置くと傳次郎やつて來た傳「さて先生、何とか御考が付きましたか　右「いや私も精進潔齋して一生懸命祈つた、是は西國の宇佐八幡へお前が參詣をさつしやるが宜い、手代でも連れて行きなすつて參詣をなさい、あちらへ一ト月ばかり居なさる内に必ず阿母さんに會へる、宜いか、是は神代の文字が書いてある神符だ、此片割を持つて居る者がお前の阿母さん、大切に是は持つて御出で、宜いか　傳「へイ有難う存じます何時出立を致しませう　右「六月の中旬出立をさつしやるが宜い　傳「へ、エ左樣……　右「それ迄はまだ時機が早いから見合せなさい」と云ふのは小い白木の木符、何だか有難さうな字を書いて朱印をベタ〳〵押して、二枚拵へた、一枚は傳次郎に渡し、一枚は竹内式部の間者が豐前の宇佐八幡へ參りまして、鵜羽又太夫の女房れさだへ此片割を授けて置いて、其處へ傳次郎が行かねアいかぬ、其間がございまするから、はざと六月立つしやいと云ふ彼れ此れ五十日斗りの猶豫を置た、そんな事は知ない、傳次郎は一日千秋の思をして居る恰度六月となる　傳「さて先生、それでは愈々今日出立を致します、店の事は番頭に賴んで置きました、二番々頭の新兵衛、出入りの鳶の者吉五郎之を召連れまして、只今發足を致します　右「ア、さうか私の言つた事を決して疑つてはいかぬ、物を疑つてはいかぬから信心をして行かつしやい、就て彼方に行つて宿屋も澤山あるが、旅籠屋へ泊つてはいかぬ、あの宇佐八幡へ參ると新在家町に鵜羽又太夫といふ神職がある、是が宿屋をして居る、此處へ泊らつしやい至つて親切に能く世話をして呉れるといふ話を豫て聞いて居るから、其處へ行かつしやるやうに　傳「へエ有難う存じます……新兵衛や、忘れるといかぬから帳面へ、只今先生が仰有つた新在家町鵜羽又太夫といふ神職さんの家を書留めて置かつしやい　新「へイ控まりました　傳「左樣なら先生行つて參りますと、阿母に會ひたいと云ふ一心、八幡屋傳次郎が江戸表を出立に及び、夜を日に繼いで乘込んで參りましたのが豐前國宇佐八幡、神職の鵜羽又太夫方へ着致しました是は豐前では名高い大社、神職が皆參詣人の宿を致しまする、最も結構な宿屋さん、此處へ主從三名着致しまする、莫大な茶代、一同の召使へ祝儀等も萬端行屆いて江戸から、必願の筋があつて遙々參詣に參つた、明日は神樂を奏し、當分此方へ御厄介になつて、少々尋ねるものがある」と云ふ、何しろ富豪が遙々參詣に參りましたので、上等の御客と云ふ、家内の者一同下へも置かぬやうに歎待ました。所が此傳次郎の着て居りました衣類が綻びました、女中を招きまして　傳「今迄ちつとも心付かずに居たが、こんなに着物が綻びた、氣の毒だがちよつと縫つて貰ひたい　女「畏りましてございます」と女中が針箱を持つて參りまして綻を縫ふ、所へ立出でましたのが鵜羽又太夫の後家、年の頃五十七八歳にもならうと云ふ、誠に人柄の良い、若い時分には定めて美人であつたらうと思はれるのが立派な裝をしてそれへ參りまして　婦「さて此度は能うこそ〳〵御參詣になりました、先刻は莫大な御茶代、召使一同へ御祝儀を下さいまして有難う存じまする」と鄭寧に禮を述べまする。

京城新報

新聞紙規則變更に就て

曾禰統監に申す

「秋きぬと目にはさだかに見へねども風の音にぞおどろかれけり」と今や秋風蕭颯として吹き來り人々に更衣を促しつゝある、時も時折も折、我曾禰新統監は此更衣の季節に於て新聞紙規則の變更をなし、保證金を倍加し以て言論の自由に間接的拘束を加へたのである、其屆出式を認可式となし、抑も是迄施行されたる新聞紙規則なるものは昨年五月伊藤前統監によりて制定せられたるものである、其當時屆出式にすべきか認可式にすべきかに就ては統監府内に大分議論があつたのである、固陋なる官權萬能論者が頻に認可式を主張したるにも拘らず又一部新聞紙の何ものたるを解する人々もありて、結局伊藤前統監の採決を仰ぐに至ると、伊藤前統監は其屆出式を採用して認可式を斥けたのである、惟ふに伊藤前統監と雖も統監政治に對する新聞紙の論評を決して喜ばれて歡迎して居つたのではなからうが、そこは自ら立憲政治家を以て任じ且つ世界の大勢に通曉する政治家として、自家の便不便によりて新聞紙の言論に拘束を加へるが如きことは外面に關する事を思ふて、終に屆出式を實行するに至つたのである、而して伊藤統監が此屆出式を採用して其職を辭する迄に新聞紙に對して有せられたる感想の如何は別として、新聞紙が如何に自由の筆鋒を揮ふて統監の個人及其施設に就て辛辣なる論評を加へたるも、伊藤前統監は泰然自若恰も富嶽の巍然たるが如く毫も狼狽の態なく又新聞紙に從事するものに對しても頗る公平にして聊かの惡感をも持することはなかつたのである、

曾禰子爵が統監職に就任せらるゝや子爵自身の口よりして言論には重きを置かずと云はれたる事を聞たのである、又同時に他よりも子爵が新聞紙の論評等に無頓着なりとの事を屢々聞たのである、然るに曾禰新統監は何と思ふてか新任後未だ何等の施設をも爲さゞるに先だちて、而も病蓐より立ちて新任後第一着の仕事として新聞紙規則の變更を企てられたのである新聞紙規則の變更！是は余輩の口より其善惡を多く云ふべきものでないかも知れぬ、何となれば同規則の變更は直接余輩に利害關係を有するものであるからである、併し如何に利害關係を有するものなりとも頭を冷靜にして考ふれば今回の變更が何が爲になされたるかと云ふことは明瞭に察することが出來るのである、世人は往々にして言ふ伊藤前統監は假令如何なる人の進言にても其用ゆべきものは他山の石として用ひたのである、然るに曾禰新統監は何人の進言も其善惡に拘らず之を用ひない、之れ伊藤前統監と曾禰現統監と比較し人物の大小は別として、其立憲的なると非立憲的なる人格に相違ある所以は明に判別することが出來ると、幵は兎も角、今の世に於て他人の進言に耳を藉さず輿論に顧ず新聞紙の論評に意を止むることなくして、圓滿なる政治の行はるゝ邦國が何處にかある、惟ふに我曾禰新統監は往年公使として歐羅巴にありし人、歐羅巴に於ける新聞紙と爲政者との關係を知らぬ筈はないのである、之を知りつゝ在韓の新聞紙に重きを置かざるは何の故であろふか、子爵の目に映ずる在韓の新聞紙が如何にも小さく感ぜらるゝ爲であろふか、遮莫子爵の目に余輩の新聞紙が小さく映ずるのみでなく之に從事する余輩にも亦極めて小なるものと思はるゝのである、自他に小さく感ずる所の新聞紙が何等の論評をなすとも、何等の記事を掲るとも其效果の少ないことは勢ひ免れない事である、然るに此小なる新聞紙に對して平生新聞紙の論評に無頓着なる事を標榜せる曾禰統監は施政の第一着に新聞紙規則の變更をなし、而も伊藤前統監の制定したるものを根本より覆へしたのである、

余輩新聞從事者に取りては見様により餘り多くの痛痒も感ぜず又之を感ぜぬように見する道もあれば、そは兎に角として、唯前任者の制定したる規則を其相續者たるものが未だ半年も經たざる中に根本より之を覆へすと云ふに至りては果して前任者に對する禮を缺かざるものと云ふを得るか、又之が相續者の名譽と云ふべきであろうか、余輩をして云はしむれば新聞紙規則の變更は前任者に對する禮を缺き、相續者自身に取りては自ら自己が鼎の輕重を問ふたる甚だ不名譽の擧と云はねばならぬ、

余輩は繰返して言ふ、伊藤前統監は言論の自由を尊重して四方より來る攻撃の雨中に泰然自若として其偉大を示したのである、曾禰新統監は自ら常に新聞紙の論評に無頓着なりと稱して居りながら突然言論に拘束を加へて其無頓着が稍々神經過敏に傾けるを暴露して自ら自已の鼎の輕重を問ふたのである、公平なる論者は前統監と新統監の對新聞方針を見て最早其相場は定まれりと云ふて居る、之れ果して適切なる批評であらうか、曾禰新統監たるもの果して之に首肯するや否耶

東京電報

▲御巡啓地と贈位

皇太子殿下今回北陸道各地御巡啓に付勤王家碩學士等二十六名に贈位の御沙汰あり其内主なるもの左の如し(同上)

贈正三位　徳川秀康
贈從三位　前田利常
同　從三位　前田常成

▲二百廿日は無事

昨十日の二百二十日の天候は全國孰れも無事

東京電報

▲韓海日人の魚獲 …額に達したり而して漁場の重なるは慶尚南道の沿海多額を占む(十三日着)

▲大演習の司令官 …

▲日露船車の聯絡 明年春…

…して殊に支那輸入者最も多かりしが近來地方金融の逼迫と韓鹽の増加と其筋の取…

…ソデスト、長老派等熱心布教に努め學校を建て生徒を教育し醫師を置きて教徒を治療…

平穏に經過し豊作の見込み確實となり米價大に下落せり(同上)

▲高商校長の任命

東京高等商業學校長左の通任命あり(同上)

任東京高等商業學校長敍高等官一等　澤柳政太郎

▲空米師の大檢擧

昨日午後山口縣各地に於て空米相場師一百餘名檢擧せられたり(同上)

▲鐵道借款金授受

吉長鐵道借款金は十四日滿鐵會社東京支社に於て同社理事清野長四郎氏と清國公使館員との間に授受を了する筈なり(同上)

▲豫算の査定終了

四十三年度豫算は各省の要求額に對し本月末大藏省主計局に於て査定を了はり來月審議會に廻付せらるべし(同上)

▲第二回國債償還

政府は第二回國庫債券の一部を償還する旨宣明せり其償還期は本年内なるも種類及期日は本月末決定すべし(同上)

▲長野市の大疑獄

長野市にて不正事件檢擧され市長、助役、參事會員、縣會正副議長等長野地方裁判所へ召喚せられたり(同上)

▲不倫教授の休職

離婚にて惡評喧かりし東京音樂學校助教授柴田環は近々休職を命ぜらるべし(同上)

▲東京市の大水害

昨十二日午前より妖雲東都を籠め天地晦冥恐るべき天候を催ふせしが果然午後四時頃に至り覆盆の豪雨となり夜十時に至るも尚ほ已まず是が爲めに市内一圓出水夥しく就中本所區は地上一丈五尺に及び車馬交通杜絶し警官總出にて防水組を指揮せり各區の被害名状す可らず市況慘憺たり

▲農作は愈々好況

農商務省當局者の語る處によれば本年度米作は確實に豊穣の見込み立ち六千萬石を超過すべく開闢以來の好況なりと(十三日發)

▲吉會鐵道の反對

吉會鐵道敷設權讓歩に反對し吉林、奉天の交渉使は辭職を申出でたり(十三日)

▲韓鐵敷設の變更

京元、湖南線の中一線丈を建設すべしとの議ありて四十三年度豫算には此の方針を以て年割額豫算を計上さるべし(十三日)

▲韓銀株の一上一下

韓國銀行權利株は二十四圓に低落せり尤も更に騰貴の見込あり(十三日午後一時發)

▲韓皇儲巡啓土產

韓皇儲には東北、北海道巡啓中吉澤商店の店員及技師を隨行せしめ實地に撮影したる活動寫眞のフイルム二千出來し是を韓皇に御土産として明春歸韓の際持ち歸らるゝ由(同上)

▲高知縣下の出水

高知縣下にては昨夜來豪雨止まず出水甚し(同上)

▲安東領事の任命

大使三等書記官木部守一氏は領事に任ぜられ安東縣領事を命ぜられたり(同上)

▲領事大淘汰斷行

海外事務官設置の結果外務省は各領事官の大淘汰を斷行する筈なり(同上)

▲事務官と設置費

政府は海外貿易事務官設置費十万圓を來年度豫算に計上したり(同上)

香港電報

▲西澤島問題成行

プラタス島事件は日清兩國委員の談判都合能く進行中なれば近々落着の運に到るべし(十二日發)

ホノルヽ電報

▲布哇と露國移民

布哇耕主は日本移民對抗策として露國移民二百五十名を募集したり(十三日東京經由)

伯林電報

▲獨帝に爆藥を投す

獨逸皇帝陛下墺國陸軍演習參觀に際し何者か線路に爆發物を投げ込みたるも幸に無事なるを得たり(十三日東京經由)

雜報

●日韓瓦斯の亂脈

(日本電報通信社所報)

日韓瓦斯電氣株式の瓦斯事業は龍山本通より南大門通を經て鐘路に至る線路と泥峴線とを第一期計畫事業として目下着々送管埋設工事中なるが同社にては來る十一月三日天長節の佳節より供給を開始せしむべく公言し居るも既報の如く泥峴線は京城居留民團との間に道路使用料の點に就て折合はず是が爲に未だ着手の運びに至らざるあり又同社の瓦斯全供給量は三十萬立方呎なるも目下の處にては僅かに二萬立方呎位にして是が料金は一立方呎一日三厘の割合なれば一日六十圓則ち一ヶ月約千八百圓に過ぎず殆んど損益計算上最少減限度にあり更に又同社内部の現狀は意想外の亂雜を極め社内の組織は徒らに官廳風を帶び材料品の調度の如きも不必要品を巨多堆積しあるのみならず現に東京邊にては既に時勢遲れとして何人も使用するもののなき暖爐を數百個も庫中に藏めあり其不經濟の甚だしき一見驚絶せざるを得ず加之當局社員は總て無經驗の人のみなれば該社瓦斯事業の前途は當分未知數なるべしと某株主は嘆息して語れり

●税關長會の會議事項

税關長會議は過日來關税局に於て開催中なるが既に一昨日曜日までに議了し又は協議中の事項は左の如くにして其の内最終の二項は昨十三日の會議に於て決定したる筈也

(一)清津通過貨物免税手續並に同貨物に對する保税上の設備
(二)私設保税倉庫を設くる可否
(三)保税倉庫其他物揚場設置の場合に於て請願に依り税關監吏の派出を申請せしめ且其の費用を負擔せしむるの件
(四)關税收入増加の爲め關税警察の擴張沿海巡邏船の巡行並に偵察の設置
(五)税關の提案ありしも必要と見認むる河川淺瀬浚渫其他檢疫並に信號見張の設置等最も急要の設備を先にすると
(六)船舶及海事に干する事務を掌る爲め税關分課の改正に干する件
(七)税關監吏に高等教育を受けたる韓國人を採用するの方針を得ること
(八)經費の節約を謀る爲め
(イ)印刷物其他物品購入を凡て分局に於て受理し各税關に分配すること
(ロ)光濟號は燈台局主管に移すこと
(ハ)各税關長官舍に使用のボーイ及コツクを廢止すること
(ニ)宴會費支辨の方法を定むること
(ホ)時間執務手當の改正
其他一般經費の節約に關すること
(九)船舶法及同檢査法並に登錄法案
(十)開港々則航路標識條例案
以上

●仁川三銀行金融統計

仁川三銀行支店に於ける八月中の金融統計を聞くに左の如し

「手形」

種別	仕向高	被仕向高
	圓	圓
送金爲替手形	六四、五三三	三五六五、一四四
荷爲替手形	一四、三八六	一三三、四四五
他所割引手形代金取立手形	三七、四一七	一五八、八九

「預金」

種類	預入	拂戻	現在高
公金	一〇、〇三六	一〇、七八三	三、九六四
定期	二九、四六二	三八、三三七	二〇五、四四四
當座	二、一三〇、一九三	二、〇八七、一一八	六八七、四七三
小口同	五二、一三三	四〇、六四三	二三三、二〇三
其他預金	二七、五六四	一三、二六四	二一、〇四四
計	二、二四一、四六七	二、二〇〇、〇六三	一、一六〇、一三五

「貸金」

種數	貸出	入金	月末現在
貸附金	七七、四四四	九六、九六八	九六六、一六六
當座同	六六九、七七六	五五四、〇八六	二九三、一九九
割引手形	三六一、二三九	四九九、三三二	一〇三、一四三
荷爲替手形	三三四、三八六	九一、五八六	七六、六〇〇
計	一、四四三、九二七	一、二七三、九四二	一、三三七、三四七

「金利」

種	最高	最低	普通
貸附日歩	三四厘	二八厘	三一厘
割引同	三四	三〇	三二

「雜種」

穀物に對する荷爲替取扱高	二一〇、六六八圓
同　擔保貸出高	五三、三七六
同　割引手形高	六五、五五五
有價證券擔保貸出現在高	一八〇、〇四四

●無税輸入問題

統監府官吏其他が自家用品を無税にて輸入し來りたるは韓國政府の好意に出づるものなる由なるも今や其弊極端に達したるを以て本社は特に本問題に關する調査を遂げ世の注意を喚起することゝすべし

●仁川の上旬貿易

仁川港九月上旬の總貿易額は四十二萬二千百三十圓にして輸出額は十七萬四千百十圓其内の重なるものは大豆及小麥にして五萬一千九百八十七圓なり尚ほ輸入額は二十四萬八千〇二十圓にして其内の重なるものは生金巾及びシーチングの六萬八千四百三十六圓なりと云ふ

●曾禰統監の弔電

米國鐵道界の巨王として雷名を天下に馳せたる富豪ハリマン氏は前號紐育電報所報の如く今回逝去せられたるを以て日本來遊の前後より特別の懇親を結び居れる曾禰統監は其不幸に對し深く同情を表し懇篤なる弔電を發送せり

●木越師團長着任

新任第六師團長木越中將は去る十二日龍山に着任したり當日停車場には石塚總務長官、西島中將、明石軍參謀長、榊原憲兵隊長其他文武官數百名出迎へ陸軍祝砲を發して歡迎せり

●慶南物產品評會

慶尚南道觀察府にては本年十一月頃より晋州に於て物產品評會開催の計畫を立て相當補助金の支給方を農商工部へ向つて申請し來れる由なり

●佛國總領事交迭

京城駐在佛國總領事は今回交迭する事に決定し今月末歸國の途に就く筈にて韓廷は勳章を贈呈する筈

韓銀株振替問題

漢湖農工銀行が韓銀株募集に付巨額の振替を爲したことはモハヤ公然の事實として世間に傳へられ居る、振替を受けた者には官吏あり商人あり隨分人數も尠なくないとの事だが其中最も巨額の振替を受けた者は某にして農銀が某に向つて特別の便宜を與へたのは南山方面より鶴の一聲が天降つたからだそうである、聞く我統監は韓銀株募集に就ては各取扱銀行に振替禁止の嚴命を下されたそうである、其嚴命を下した統監と鶴の一聲を天降らした方とはドレ程違ふか知れぬが苟しくも一方に於て禁止の命を下した統監が他方に於て其禁止を破れとの命を下すべき筈なければ之は矢張り統監は統監鶴は鶴と別々に見るが本當であるかも知れぬト云へ人の口に戸は立てられぬのである、今は市中專ら我統監が農銀の振替に就て何か積極的關係を有せられたかの如く評判をして居るのである、内地にては大藏大臣が疑を受け韓國にては統監が疑を受くるとは假令間違にしても施政上甚だ面白くない事である、蓋らくは農銀たるもの此際一聲を天降らした鶴の本性を公にし統監に對する世の疑を解くの途に出でんことを、左もなきときは世間は統監と鶴とを混同するの僻見を持して終に悟らざるの恐があるからである。

●京城民團の寄贈

近々歸朝の西島前六師團長へ京城民團より豹皮一枚寄贈す

●入京中の税關長

旅宿は左の通りなり

釜山税關長　山岡義五郎　(浦尾旅館)
仁川同　宮木又七　(天眞樓)
鎭南浦同　有賀有豐　(浦尾旅館)
元山同　野手耐　(不知火旅館)
燈臺局長　島重治　(仁川より通勤)

●草場檢察官轉居

法務院檢察官草場林五郎氏は一昨十二日旭町法務院官舍より大和町二丁目統監府官舍第七號へ移轉したり

●岩崎民長の出席

仁川民長岩崎直英氏は昨日より京城に於て開議せらるゝ在韓商業會議所連合會に出席する筈なりと云ふ

●岩井警視の渡日

内部警務局保安課長岩井警視は久しく病蓐中に在りしが病後靜養の爲め去る十一日夜發歸朝したりと云ふ

●獨逸武官の入京

獨逸參謀將校メシアンドー夫妻は十二日午后八時二十五分西大門驛着列車にて入京アストルホテルに投宿

●竹山純平氏辭退

今回韓銀理事に推されたる竹山純平氏は都合により辭退を申出たる由而して同氏は一銀支店に在任する筈

●一銀店員の壯遊

當地第一銀行支店員五十餘名は去る十二日の日曜日を利用して北漢山に登り一日の壯遊を試みたる由なり

●三浦理事官歸任

馬山出向中の三浦理事官一昨夜歸京昨日石塚長官を訪問せりと

●俵學部次官引籠

俵次官は微恙引籠中

公人私人

▲酒井孝德(公州財務局事務官)十二日入京
▲川上常郎(大邱財務監督局長)同三日月へ
▲安武千代吉(辯護士)同山本旅館へ投宿

近事片々

▲我天皇陛下の聖德高は長多し鐵道院の鳳車新調奏上を御聽許在せられずと承る
▲陛下の御召列車は舊式なる故に新調を奏上せしに戊申詔書の趣旨に反すと逆許玉ず
▲漏れ承るだに感泣の外なし斯迄民を愛させ給ふ大御心官民御趣旨に副ふ心懸事一
▲小閑あれば青樓に遊び酒色に沈溺するそんじよ其所等の輩は深く省て恥る所あれ
▲平田内相は廿本五錢の卷煙草を吸ふて御趣旨を奉戴すと謹嚴の平田にして此事有り
▲世人は平田の擧を以て餘りに吝に過ぐとなすも一事は萬事也其心懸けは嘉すべし
▲韓鐵と滿鐵との合併は早晩事實として現はれ來らむされど[illegible]の渡韓の後ならむ
▲滿韓經營上是は是非共統一されべきもの個々別々の施設は決して大を爲さゞる也
▲前總税務司ブラオン氏の施設によりし港灣調査會其後漸次調査進捗しつゝありと
▲此調査は最も必要にして之により沿岸の開發を速ならしむるを得更に努力せよや
▲高平歸りて駐米大使の後任未だ定らず栗野内田等固辭し御鉢は牧野男に廻り居る
▲撰拔の方法經歷や系統に拘泥する爲適材を得る事能はず何ぞ破格撰拔を爲さざる
▲米國は流石に新進の國其鋭氣猛活の氣國内に横溢す大冒險大探險家起るを怪ます
▲タフト大統領の中央集權によりて國威を揮はんとする猛志は今や沛然として現る
▲獨逸は軍備制限を英國と妥協するの意ありと果して然らば英は喜んで應ずべき也
▲軍備擴張の競爭は列國の煩に堪へざる所制限說は列國等しく希望するの聲なるか
▲聖代の怪事として東京每日は軍隊内自殺の事を掲ぐ然り或に左る事實もあらん也
▲飛行器の發明者現はる其人は奈良原男の令嗣而も其發明は頗る巧なるものなりと
▲日本にも一ツ世界を驚かす飛行器を製造したい唯々發明の噂斗りでは甚だ心細し
▲電熱を用ひて液躰のセメント製造を發明したるもの熊本にありと是又有用の發明

特敍勳一等賜八卦章
統監府參與官　永濱盛三
鐵道管理局技師　鵜尾謙親

特敍勳三等賜太極章
統監府秘書官　佐竹義準
鐵道管理局技師　久門雄二

仁川の虎疫猖獗

▲患者は七十餘名

仁川の韓人部落に於ては今や虎列拉病猖獗を極め現患者及び死者七十餘名の多きに達したれば其筋に於ては目下極力病毒の撲滅に努めつゝあり今左に詳細報ずる處あらん

▲檢病的戸口調査　去る五日仁川府内面花村洞（租界に隣接する韓人部落にして戸數百六十あり）に於て吐瀉患者發生せりとの報ありたれば直に係官をして檢病的調査を爲さしめたるに全く症狀虎列拉病に類似せるを以て傳染病患者と見做して該患者二名の住家に大消毒を行ひたるが越へて六日午後十一時頃同洞に前病症と同樣なる患者四名（内三名死亡）を發見したれば直に消毒を施して其豫防に努めたるに翌七日同地萬石町に日本人の虎列拉患者發生すると共に同日江華郡東莫に於て同患者五名死者二名を發見したりとの報仁川署に達せしかば茲に同署に於ては大騷ぎを爲すに至り附近の各韓人部落に對し嚴重なる檢病的調査を勵行したる處同日平洞に於て同病者一名及び死者一名を發見し次で翌九日又もや同洞に於て該患者一名及び花村洞に於て一名を發見し尚引次き十日に至り水踰洞に同患者三名死者二名平洞に同三名死者一名を發見し同十一日は水踰洞に於て一名外洞に於て二名松峴洞に於て二名花島洞に一名永宗島に十五名及び死者九名を發見し一昨日に及び花村洞、花島平洞、松峴洞、水踰洞、永宗島の各所に十二名の新患者を發見したり

▲仁川署の大活動　大体の經過及び蔓延の模樣は前記の如し然れば仁川署に於ては非番巡査は勿論各駐在所巡査をも召集して患家の消毒、食器の煮沸、塵埃の燒却等を施行し尚ほ傳染病患者收容所及び同事務所を設置して該患者を收容し尚ほ亦た永宗島及び仁川港との船舶交通を遮斷したり

▲病原地は新義州　右病毒の系統は何れより來りたるや未だ不明なりと雖も永宗島には新義州方面より密輸入船の出沒するものあれば或は目下猖獗を極めつゝある新義州地方より病毒を輸入し斯くの如く傳播したるにあらずやと噂し居れり

▲警察部長と技師　右の如く益々病毒蔓延の兆あるにぞ内部衛生局よりは技師奥貫氏を特派されて豫防上の事務を擔任し尚ほ昨十三日飯田警察部長は仁川に急行して該韓人部落を巡視せり

▲防疫委員の囑托　尚亦た一方仁川署長宮舘警視は十二日仁川府内面居住の韓人有力者十五名を呼出して豫防上の注意を與へ防疫委員を囑托せり

▲仁川民團の警戒　右病患者は何れも韓人（内一名日本人）のみなれど若し病毒の日本町に侵入するが如き事あらんには由々敷一大事なれば昨夜民長は民役所樓上に市内各衛生組長を招集して豫防上の協議を爲したりと

釜山松島の情死

▲女は藝妓……男は食客

去る十日午後五時過ぎ釜山西釜山港の浦つゞきなる松島半島の東岬に博多織男用夏帶にて胴と胴とを結び付けたる男女の屍体漂ひ寄りたるが女と云ふは同地富平町釜山樓抱ゐの特別藝妓小六にして男は同樓の食客藤浦柳治なりしが今此兩人が何故に斯く抱合心中を爲すに至りしかと云ふに

▲藝妓小六　同人は原籍京都市上京區上長者町通千本東入山王町谷口喜三郎養女實（二三）とて去四十年十二月中四箇年の約束にて釜山樓に抱ゐられ小六と名乘て特別藝妓の稼業に從事せしが同人は色黒く容貌醜き方にて唯遊藝の外愛嬌好く酒量強きが客の相手となるに過ぎず然れど酒を好むが爲め放逸に流れて借金の苦み常に絶えざりしと

▲食客柳治　小六の醜婦なりしと共に柳治も醜男の方にて原籍三河國碧海郡高濱町に生れ當年二十七歳なりしが昨年七月頃義太夫某の世話にて釜山樓方に入込み食客として家事の手傳をも爲し居たるが本年四月頃より兩人は互ひに親密を加へたる擧樣なれども家人は見て見ぬ振の粹を利せたり

▲兩人の逃亡　而も小六は三等貸席の特別樓を開設されしより自から進むで同樓に出勤し七、八兩月は成績一等にて「あの黒助が」と驚かれたるばかりに勉強せしが本月六日夜釜山樓に歸り「今夜は特別樓で客に時間を買て貰つたが茲（釜山樓）に泊つてる力士も時間を付けて呉れたから充分遊ぶ」とて二階の力士の部屋に上りて戯れ遊び後釜山座の芝居見物に行き再び特別樓に歸りて十二時より客に聘ばれたるが此登樓客が情夫柳治なりし事は後に知られたり斯くて翌七日は檢黴日に當り他の娼妓は驅黴院に赴きしも獨り小六の行衛のみ不明なるにぞ樓内の者は諸方を搜索せし結果鏡臺の抽斗に「釜山の浪人より」として「宮野貴殿」即ち小六に宛てたる五日付の書狀を發見したるが此書狀こそは柳治が世を厭ひ自死する旨を記したる遺書同樣の文なれば倍々心付きたる家人は俄かに人手を分ち八方を搜索するうち釜山樓の韓童が小六の土城町方面に行くを見たりと云ふを聽き毎夜富民一附近にまで出向きたるも小六は遂に歸り來らざりし

▲情死の動機　合意心中なる事は屍体の摸樣にて判明せるも兩人の遺書無ければ確なる原因を認め難し

▲投身は何處　殊更に寢衣より一張羅の御召縮に着替へ土城町方面に赴きたる小六は其後如何にせしや富民洞の日本人某は其日午前九時頃男女兩人が痛く悄れたる態にて富民洞を過ぎ松島半島の方に赴くを認めたりと云へば多分同日中に半島の東岸より投身せしものなるべし

▲釜山樓の佛事　小六は釜山樓方に前借金の外七八十圓の負債を殘せど一時の淺慮より空しく異郷に横死せしを憐れみ同樓にては昨日組合員一同集會し柳治小六兩人を火葬に付し懇ろなる佛事を營みたりと

日韓人夫の爭鬪

▲宇治川電社内の騷動

京都府下宇治郡宇治村字志津川の宇治川電氣會社にて前日同會社の工事作業中の日本人夫某と口論の末同人を毆打し負傷せしめたる朝鮮人夫あるを聞き印西巡査が出張右韓人を引致せんとしたりしに同國人夫數名は犯人の釋放を嘆願して止ず雇主井上豐吉が制止するを惡く誤解したるものと見ゆ忽ち四十餘名の韓國人夫は群集して井上を包圍したるより日本人夫も亦大集團をなして押寄せ來り茲處に忽ち双方衝突し韓人は石投にて邦人は鶴嘴を揮ひ大格鬪を演じ邦人四名韓人一名の負傷者を出せし騷に藤田醍醐警察署長出張双方を解散鎮靜したるが負傷中邦人二名は重傷なり同署は其始末調査中なるが雇主をよび本邦人夫が常に韓人を侮蔑冷遇したるより其反動を誘發したるにあらずやとの事なり

虎列拉病の續發

▲旭町と永樂町

旭町一丁目百五十五番戸の二内部灑川主事妻こま（二四）及同町一丁目五十五番戸の五度支部青山主事の妻しま（二八）の兩名は何れも去る十一日夜疑似虎列拉病に罹り同夜青坡避病院に入院せり因に之等發病の原因は同町に住居せる石工小野八十吉方へ同人の弟烈太郎が既報の如く大連より入京し同病に罹りたれば病毒は同人が大連方面より輸入せしものならんと又永樂町二丁目花田吉太二女きく（三つ）は一昨十二日午後六時頃發病翌午前零時三十分死亡せしが檢診の結果眞正虎列拉病なりと判定せる由

謹告

豫て大方各位の御賛同を得て編纂を企て候朝鮮紳士錄は着手殆んど脱稿一部分は已に印刷に附したる所商業會議所議員に變動を來し鐵道管理局の官制改革、軍部の廢止等種々制度の上に變更を生し候爲め其都度原稿を改竄するを餘儀なくせられ編纂上に意外の日子を要し昨今漸く脱稿再び印刷に附し候樣なる次第にて到底來る十五日迄には送本の運びに至り兼候間何卒左樣御諒察被成下度尤も送本期日確定次第御報告可致候得共不取敢以上の顚末に對し得貴意度此段謹告仕候敬具

尚會社銀行等にして今日に於ても組織變更其他に付原稿變換御申込の向有之候得共右は印刷上の都合御受付致兼候に付不惡御承了被下度候

九月十四日

京城新報社出版部

●無類の親不孝者　廣島縣生れ當時京城太平町二丁目居住行宗淳之助の實父太郎助（八三）は淳之助が二三年前渡韓せし以來郷里廣島に於て自分の娘の嫁せる某家の厄介となり居りしが過日娘より金五十圓を貰つて渡韓し淳之助の許に來るべく相談纏り都合も不取敢十五圓を受け取り之を旅費として渡韓し殘りは後より送金の約束にて當地に來りしはつい此頃の事なるが着京以來再三娘の許へ殘金三十五圓の請求を得せしも送金し來らざるより西部警察署へ出頭し同署より廣島警察署へ照會して娘へ送金方の設諭を下さる樣と願出でたれば西部署にては夫れ〳〵手續を了したる所兩三日前送金し來れりとて老人は大に喜び西部署へ出頭厚く禮を述べ立ち歸りし迄は宜かりしが豫て一物ある悴淳之助は其の金を取り上げて更に渡さゞるのみか昨日よりは三度の食をさへ與へざるにぞ老人は涙ながら其旨南大門派出所へ訴へ出しかば居合せたる韓人巡査同家へ出張其不心得を懇々諭したるに淳之助は横着にも韓人巡査等が乃公に生意氣なりとて暴言を吐くにぞ止む無く老人は又々西部署へ説諭方訴へ出でたりとはさても薄倖なる老人なるかな

●韓泥二名捕はる　全羅南道濟州島居當時住所不定無職姜性春（二六）同李才學（二八）外一名は去る九日午前二時頃龍山淸水町二十番戸石川惣太郎（四二）方に忍び込みニッケル側懷中時計一個價格六圓五十錢拾圓札壹圓札及白銅貨總計十一圓十五錢外衣類雜品二十七點此價格凡そ九十五圓餘を竊取し十四日午後一時頃京城長谷川町質商野口キク方に質入せんとして日本人の同伴者なければ取扱ひ難しとて去りしを早くも烱眼なる西部警察署部司刑事の聞くところとなり爾來苦心探偵の結果十二日午後姜李の兩人が京城靑坡町韓石雲方に潜伏典物の相談中踏込み難なく逮捕し竊盜犯として引致す

●龍山署の淫賣狩　一昨十二日午前四時過ぎ署員總出にて非常臨檢を行ひ左記犯則者を檢擧し各拘留に處したり

柳町一丁目出口うめの（媒合したる廉により拘留七日）同人方抱ゐ酌婦澁田ふく、平田まさの兩人は（賣淫の廉を以て拘留各四日）元町三丁目青柳正太郎内縁の妻田中ゆきは（七日）同人方雇田きく（五日）に本町四丁目有本ツルヱ方姫野たま（五日）同人方仲居太田あい（媒合を以て五日）山下町中田とも（七日）同人方林田さき（五日）同木村ミヨ（五日）大島町松崎竜吉（七日）同人方森元くに（五日）同人方仲居政次ミカ（七日）

●仁川虎列拉續報　仁川韓人部落のコレラ猖獗の狀況は以上の通りなるが右に就き仁川署にては警官六十二名の總掛りで豫防消毒に從事し極力日本人居留地への浸入を防止せし早斐もなく昨日午前八時花町三丁目五番戸の七漁業三宅五郎吉（二七）は該病に罹れり尚ほ韓人部落昨日の新患者四名ありこれにて同地の患者は累計七十五名也

●女房に持逃らる　京城旭町二丁目百七十一番戸人力車輓子山内淸一郎内縁の妻林フジ（三三）は十一日夜十二時過ぎ夫淸一郎所在金四十圓並に衣類數點を持ち出し無斷家出せり或は南大門驛より乘車すべきやも知れずとて同人の人相書携帶品等を具して取押方十二日南部警察に屆出たり

●財務署長の犯罪　西署盤松坊池下契錄洞九十四統九戸居住高俊相（三九）は本年四月頃迄全羅南道智島財務署長たりしものなるが同署在職中一昨年より昨年迄の間に公金千六百圓余を胡魔化し居れる事發見せられ前記の處に潜伏中十一日西部署の手にて取押へられたり

●酌婦檢梅の結果　西部署管内の料理屋及び飲食店の仲居酌婦等の臨時健康診斷は去る土曜日南大門梅毒病院に於て執行せられしが受診者總數六十八名中有毒者は僅かに太平町一丁目五十四番戸九洲樓方田浦はな（二三）の一人のみなりしが同人は既に第二期梅毒に罹り居れりと

●仁川の赤痢患者　仁川寺町二丁目居住の政田伊三郎妻さい（二二）は一昨日赤痢病に罹り直に避病院に收容さる

●少年荷車に轢かる　仁川龍岡町二丁目に於て去る十一日午前十一時頃平洞居住の柳順石（九つ）は宮町三丁目の野村久松所有の荷車に轢かれて負傷せしかば直に高木醫院にて應急の手當を加へ警官出張示談にて事濟みたり

●吾妻の小福廢業す　仁川吾妻樓にて嬌艶を謠はれ居たる小福拍子は一昨日其筋に廢業屆を差出したりと

演藝

▲歌舞伎座●●●　彰義隊愛澤一座本日の替りは「恩愛」全七場にして配役左の如し

藝妓小花（西井）三好れ代（桂木）娘れ蝶（河野）巡査吉川猛（川上）電信直次（角村）三浦照子（中村）骨藥賣安平（大和）三浦義臣（松村）番頭榮七（美崎）山本武次（篠崎）三好金次（愛澤）

吉凶鏡　本町五丁目　三一舘判斷

九月十四日　舊七月卅日　二黑　赤口　丁丑　さだん

△一白●家庭近親の上に心痛事あり保證引受世話事を避くべし△二黑●身神の敏活を缺き損毫失徳あり總じて凶日なり進取に傾かず守成と利あり△三碧●壯者は色情娛樂に沈溺して徳りあり老者は卑屬親の身上につき痛心の事有△四綠●盗難遺失詐欺詐計防ぐべし決斷急激早急に馳せて失却あり△五黃●禮を案して中絶離間起り易し賭事大なる資質に不利なり△六白●顯進の日なり入學入門開店開業婚姻等に最も吉不時の負傷避くべし△七赤●集團を結成し緣合を求むるによし業務の上につきても利益あり△八白●平穩の日とす子孫の爲めを謀るに最も妙△九紫●順逆本末を正ふして事を處辨すべし斯の轉倒より錯誤起り易し

右は概括的判斷なり各人格別に付ては直接同館の鑑定を請はる可し

各種
洗濯石鹼
專門製造販賣
用途 陸軍、鐵道、船舶、鑛山、水道、湯屋、製髪、諸工業用
京城旭町二丁目 (電話九七三番)
朝日石鹼製造所

電話開通 三百貳拾九番
牛豚鷄肉卸小賣 大販賣
本町一丁目三巴酒店前 たからや
明治町一丁目 石田精肉店出張所 電話千〇四十二番

●品質純良の牛乳を得んとせば乳牛の食料に注意を要す 牧場は此に留意し好良の食料を給す
●牧場搾取の牛乳を愛飲せらる〻御諸君は最も滋養豊富風味佳良の牛乳を飲用し得らるべし
京城本町五丁目(電話四七番) 販賣元 松尾支店
京城東四軒町(電話七五番) 搾取所 松尾牧場

入院隨意
諸般の設備を改善して一般診療に從事す
内科小兒科部長院長 安藤一郎
皮膚病花柳病外科部長 醫學士 鶴田善重
産科婦人科部長 醫學士 山添喜代藏
耳鼻咽喉科部長 石田誠
診療時間毎日自八時至後二時(但日曜大祭日休業)
京城明治町一丁目 電話十二番
漢城病院

東京火災海上運送保險株式會社
明治二十年七月創立 資本金一千萬圓
京城代辨店 本町四山口呉服店 電話九番
事務所 京城本町二の二 電話一〇六〇番

日韓印刷株式會社
營業科目 活版、石版、銅版、各種印刷、帳簿、装釘、書籍、製本及ビ印刷諸材料販賣
遍ク諸材料ノ精撰ヲ計リ期日ノ正確ヲ旨トシ最モ敏活ニ最モ低廉ニ御高需ニ應ジ候間多少ニ不係御注文ノ程希上候
本社 京城明治町三丁目 電話三三三番
出張所 東京麴町區飯田町八丁目十九番地 電話番町二九〇番

東京
正札付大安賣 掛毛引なし 安心して買へ升
本店東京 京城大和町二丁目の出橋際 大和屋 藤井出張店 電話二百〇五番



移轉廣告
正札より一割引
弊店儀大方各位の御引立を蒙り日々繁榮に赴き從來の店にては手狹を感じ候に付今回左記之場所に移轉し一層業務を擴張して御得意樣方の御便利を圖り聊か平素御愛顧の萬分の一に酬ん爲め移轉の御披露として向一週間正札より一割引仕候間何卒一層御用命の程奉懇願候
九月十日
京城本町二丁目 富田製靴店 電話九一九番
京城本町六丁目 富田製靴支店

單衣大賣出し
自來る十二日 二十二日迄で 正札より一割引
見切品種目
英ネル 一反 四圓九十錢より
セル 同 三圓三十錢より
名仙縞絣 同 三圓より
東京双子 同 一圓五十錢より
薩摩絣 同 一圓五十錢より
木綿結城縞 同 一圓廿五錢より
大和絣 同 一圓七十錢より
木綿縞 八十五錢より
織色 一反八十錢より
もゐ黃 同 七十八錢より
友仙モス 大巾尺廿二錢より
無地モス 同 十六錢
英ネル代用品 十二錢
更紗 大巾七錢より 尺八錢
其外大見切太物つり切山の如し
京城本町三丁目(電話一五七番)
圓城呉服店



京城光化門通 淺田洋服店 店主 大島專藏 (電話四百十三番)

胃腸消化新劑
澱粉消化 ヂヤスタリン
蛋白脂肪消化 ヂゲスチン
錠劑十日分(三十粒入一瓶)二十錢
散劑一オンス入(一瓶)一圓二十錢
錠劑十日分(三十瓶入一瓶)三十錢
散錠一オンス入(一瓶)二圓四十錢
右は最近内地に於て急激の需用を來たしたる名聲嘖々たる世界無比の理想的絶品にして所謂賣藥には無之候 各地有名なる藥店に於て販賣す
●大韓醫院御用藥
韓國一手賣捌元 京城光化門通 大島專藏

移轉御披露
秋冷の候各位益々御清榮の段奉賀候 當店儀皆々樣の御厚情を蒙り日増に繁榮に趣き從來の家屋にては手狹を感じ候に付今回曙町元大韓日報社跡へ移轉仕り物馴たる仲居數名を置き從來の料理の外會席すき燒等萬事御手輕を旨とし安價に調理仕一層勉强可仕候間不相變御引立の程偏に奉希上候 謹言
京城曙町(元大韓日報社跡)
依すし 松善

京城南山町一丁目
待合
増築落成
ますの花
電話一〇二五番

大上商店
特約販賣自製
漬物 味噌 醬油 製造元
京城本町五丁目
和洋酒、精酢、穀物麵類、銘茶、罐詰、乾物荒物食料雜貨、ビール、米糀、塩辛、日本食鹽各種特約販賣尚御望に依り商品切手調進仕候
(電話二五一番)

洋食 生そば
うなぎ丼 うなぎ蒲燒 天ぷら 辨當折詰類
今回生そば相始め一層勉强致し候間多少と遠近とに不拘續々御用命之程願上候
南大門驛構内 電話六八七番
エーテー



消毒防臭劑
クレシン
京城本町二丁目 四ヶ所洋物店 電話三二一番

名譽銀牌受領 キリンビール

消閑之清遊
毎日午後開會諸君予陸續御臨を賜へ
京城明治町一丁目 京城碁會 (大和湯前〇万降)
市中之仙境

易斷觀相教授 館主 土御門派大陰陽師
京城本町五丁目 三二館

牛乳 荒井牧場 電話一〇五六

日本郵船株式會社 仁川出帆廣告
貨物及船客取扱店
仁川海岸通 電話三九番 郡回漕店
●釜山長崎門司神戸行 山東丸 九月二十六日午後三時出帆
●大連、大沽、牛莊行 高砂丸 九月 日正午時出帆
●大連、大沽、牛莊行 山東丸 九月十四日午前四時出帆
●大連、大沽、牛莊行 酒田丸 九月三十日正午時出帆
●釜山出帆、元山、清津、浦鹽行 立神丸 九月
御注意 御乘船ノ際ハ税關波止場ヨリ本船迄送迎船ニテ御送リ可申候送迎船ハ本船出帆ノ約五十分前ニ解纜ノ事

●新聞代 一枚金二錢 一ヶ月金四十五錢 六ヶ月金貳圓 一ヶ年金四圓
●廣告料 五號活字十九字詰一行一回五十錢 三號活字十九字詰一行金六十錢
發行兼編輯人 高木久太郎
印刷人 須久井一郎
發行所 京城新報社 京城西署西小門通 電話六六三番